様式 Form 7
（外国人招へい研究者）

2024 年　6 月　3 日

YYYY/MM/DD

独立行政法人日本学術振興会理事長　殿
To: President, Japan Society for the Promotion of Science

研究活動報告書
Research Report

１．受入研究者/ Host researcher

受入研究機関・部局・職 Name of Host Institution, Department and Title	東北学院大学・経営学部・教授
受入研究者氏名 Host Researcher's Name	松岡孝介

２．外国人招へい研究者/ Fellow

所属研究機関・部局・職 Name of Institution, Department and Title	University of Glasgow, Adam Smith Business School, Lecturer
外国人招へい研究者氏名 Fellow's Name	AHN Paul Daeseung

３．採用期間/ Fellowship Period

2024 年　4 月　1 日　～　2024 年　5 月　30 日

４．研究課題/ Research Theme

新自由主義が日本の管理会計実務に及ぼす影響

５．研究活動報告/ Research Report

（1）研究活動の概要・成果/ Summary of Research Results

本事業では、Ahn 講師によるワークショップを大阪経済大学、東北学院大学、拓殖大学、および立教大学の拠点で開催することを予定しており、それぞれ 4 月 6 日、4 月 18 日、5 月 10 日、および 5 月 28 日に実施された。Ahn 講師を招へいした主たる目的は「新自由主義の管理会計実務への影響」という研究テーマを日本で展開することであり、会計研究者を対象とするワークショップでは同テーマでの講演を実施していただいたが、必要に応じて Ahn 講師のカバーする他の研究テーマや研究方法論についても取り上げていただいた。

大阪経済大学では、Ahn 講師から "Neoliberalism and accounting research"の演題で講演が行われるとともに、日本人研究者からの報告も行われ、日英双方の研究者の間で活発な意見交換が行われた。なお、このワークショップを通して、Ahn 講師はさらに日本でのネットワークを拡大され、追加的に 2 つのワークショップにて講演を行う機会を得られた。これについては「（3）その他」で追記する。

東北学院大学では、経営学部の全教員を対象に国際雑誌掲載を目指す上でのアドバイスを提供するためのワークショップを開催した。Ahn 講師の講演タイトルは "Writing a good research article publishable in top-tier international journals: A case of Accounting, Auditing & Accountability Journal"であった。また、このワークショップでは、Ahn 講師のグラスゴー大学の同僚である KIM Dong-hyu 上級講師にもご登壇をいただいた（Kim 上級講師は一橋大学イノベーション研究センターの客員准教授として日本に滞在中であった）。Kim 上級講師による講演タイトルは"Advice for international journal publication"であった。Kim

（注）採用期間終了後 3 ヶ月以内に提出
※　(Note) Submit the form within 3 months after the expiration of fellowship.
※　様式 1 に記載された情報を元に確認しますので、部局名等の名称含め、内容に誤りが無いか必ずご確認ください。

上級講師にもご登壇いただいた目的は、Ahn 講師と Kim 上級講師はどちらも英語に関してはノンネイティブであるという共通点を持つ一方で、両氏の専門分野はそれぞれ会計学および経営学と異なっているため、経営学部に所属する教員全員にとって関心の持てるワークショップにするためであった。両氏からの実体験を交えた助言は、主として若手研究者の間で国際的研究を実施していくための強力な動機づけとなった。

拓殖大学では、Ahn 講師から 2 つの講演が行われた。演題は“Neoliberalism and accounting research”および“Visual methodology in accounting research informed by Pierre Bourdieu's theoretical notions”であった。また、このワークショップでは日本の研究者から欧米の有力雑誌に投稿中の論文について報告があり、Ahn 講師や他の参加者との間で査読を乗り越えるための有益な意見交換が行われた。

立教大学では Ahn 講師から“Neoliberalism and accounting research”についての講演が行われ、参加者との間で密度の濃い議論が行われた。具体的には自由主義と新自由主義の違いは何か、解釈的研究と批判的研究の違いは何か、アクターネットワーク理論は解釈的研究と批判的研究のどちらのために利用できるか、さまざまな制度理論を用いて日本における事例研究をどのように進めることができるか、国際雑誌掲載のためにはどのようなアプローチを採用すべきかなどである。

上記の他、本事業では(1)事例研究を行っている日本の研究者に Ahn 講師から直接の助言をいただくことと、(2)Ahn 講師と受入研究者との間での共同研究プロジェクトについて議論することも予定していた。(1)については、日本の研究者複数名を個別に Ahn 講師に紹介し、議論や助言を行なっていただいた。進行途中の研究であるため具体的な内容についての言及は控えるが、どの研究者も、Ahn 講師のイギリスを中心とした管理会計研究の動向についての幅広い知識に基づいた助言に大いに刺激を受けられている様子であった。(2)については、受入研究者が現在執筆中の事例研究について、どのような理論的視点を採用することができるかについて密度の濃い意見交換を行うことができた。また、同事例研究を執筆していく上で参考になる具体的な文献を複数紹介していただいた。さらに、同事例研究について共同研究者として参画していただくことについて了承を得ることができた。

以上より、本事業で計画していた活動は全て実行することができた。本事業の遂行を通じて、新自由主義を含め社会学の視点からいかに会計学研究を行うかについて、日本の研究者への紹介を行うことができた。また、各ワークショップの後には懇親会が開催され、Ahn 講師との交流を通して日本の研究者に国際的な研究を遂行するための意欲づけを行うことができたと考えられる。また、Ahn 講師は日本人研究者と個別に議論をしたり、受入研究者との共同研究の打ち合わせを行なったりするなど、将来における国際的研究成果へ結びつく活動にも取り組まれていたと言うことができる。

（2）主な研究発表（雑誌論文、学会、集会、知的財産権等）/ Main Research Publications

特になし。

（3）その他/ Remarks

上記の予定していた活動のほか、Ahn 講師は東京都立大学（5 月 11 日）と北海道大学（5 月 18 日）におけるワークショップにも参加し、“Make China great again: A case of Confucian accountancy profession”という演題で講演を行なった。また、どちらのワークショップでも日本の研究者からの報告もあり、Ahn 講師との意見交換が行われた。これら 2 つの追加ワークショップを合わせると、Ahn 講師は全部で 6 つの拠点を訪問して講演を行ったこととなる。したがって、Ahn 講師は 60 日間の滞在期間中、非常に精力的に活動され続けていたと言うことができる。

（注）採用期間終了後 3 ヶ月以内に提出

※　(Note) Submit the form within 3 months after the expiration of fellowship.

※　様式 1 に記載された情報を元に確認しますので、部局名等の名称含め、内容に誤りが無いか必ずご確認ください。